

明石市交通安全対策会議（議事要旨）

日 時 平成 29 年 2 月 9 日（木）13：30～14：30

場 所 市役所議会棟 2 階 第 2 委員会室

出席者 別紙のとおり

傍聴者 1 名

会議次第 1 開 会

2 あいさつ 明石市長 泉 房穂

3 市内の交通事故概況報告

4 第 2 次明石市交通安全計画について

配布資料 資料 1 市内の交通事故概況について

資料 2 第 2 次明石市交通安全計画（案）の概要

資料 3 第 2 次明石市交通安全計画（案）

《議事要旨》

——次第に沿って進行——

○冒頭に明石市長よりあいさつ

○次第 3 について資料 1 を使って事務局より説明

（会長）

次第 3 について意見はないか。

—意見なし—

○次第 4 について資料 2、3 を使って事務局より説明

（会長）

次第 4 について意見はないか。

重点項目に「高齢者」とあるが、高年クラブから何か意見はあるか。

（委員）

車道と側溝の継ぎ目部分では段差があり自転車に乗りにくい。なぜそういった継ぎ目があるのか。

(委員)

側溝はコンクリート、車道はアスファルトでできていて材質が違うため、自然と継ぎ目ができてしまう。

ただ、段差ができていないかについては道路管理者がパトロールして安全確認している。
何か問題があれば道路管理課に連絡いただければ現地を確認する。

(会長)

具体的な場所を教えていただけたら対応する。

危険個所について同様の意見が小中学校の意見交換会でもあった。

また、運転免許自主返納促進事業について事務局から説明してほしい。

(事務局)

明石市交通安全推進協議会が実施した運転免許自主返納促進事業は、平成 28 年 4 月から 9 月に申請を受け付け、返納者に対して商品券をはじめ様々な特典を設けた。例年明石警察署に 100 件程度の返納があったが、平成 28 年 4 月から 9 月に市へ 750 件の申請があった。

マスコミや他都市から取材や問合せがあり、評価いただいた。

高齢者対策については交通安全計画に基づき、形を変えながらよりその時々で効果的な手法を用いて取り組んでいく。

(会長)

運転免許自主返納促進事業は、高齢者が被害者にも加害者にもならないように取り組んだ事業である。

本人は大丈夫だと思っても家族は心配しているケースがよくあるため、周囲から声かけしてもらいように取り組んだ結果、多くの反響があった。

自転車対策について高校生のマナーに対する意見をよく聞くが、PTA から何か意見はないか。

(委員)

道路の片側にしかグリーン舗装がない道路の場合、子どもに対してどのように伝えていけばよいのか。

(事務局)

グリーン舗装は校区の事情や道路形状により特色がある。

毎年、市や警察、PTA などと通学路点検し、指摘のあったポイントを道路管理者と協議して改善している。

様々な機会を通じて保護者目線の意見も是非頂きたい。

(会長)

鉄道事故を防ぐ安全面の取組みについては関心が高まっているところである。

このポイントについて障害者団体からの意見はどうか。

(委員)

ホーム柵の設置について請願を出した後の動きはこれからである。

先日、神戸刑務所横の道路を自転車で並走している高校生に注意すると、高校生から逆上された。

(委員)

高校生の自転車マナーについてはよく意見をいただいている。

平成 22 年から、警察・保護者と一緒にチャリ通向上プロジェクトを立ち上げて通学路に立って生徒を指導している。

また、各高校でスタントマンを使った交通安全教室を実施して、高校生のルール・マナーの向上を図っている。

これからも継続して取り組んでいく。

(委員)

日ごろの慣れが問題である。慣れた道では出会い頭の事故等が起こり得る。

通学路に立って現状を確認した上で、ホームルーム等で継続して指導していく。

(会長)

JR の安全対策の取組みにはどのようなものがあるか。

(特別委員)

ホーム柵を設置していく方針ではあるが、その時期は未定である。

酔客対策としてホームベンチの方向を列車に対して平行に向きを変えている。

また、障害のある方へ積極的に声かけするように心掛けている。

(会長)

JR には前向きに取り組んでもらっている。

補足だが、一年余前に JR 明石駅で死亡事故が起こったこともあり、鉄道事故への関心が高まっている。その中で、先般署名活動があった。

その請願が市議会において全会一致で採択され、市長、議長、商工会議所会頭、障害者団体の代表が一緒になって JR 西日本本社を訪問した際、前向きな対応をいただいた。

原則 10 万人以上の利用者がいる駅にはホーム柵を設置する方針であると聞いている。

該当する明石駅と利用者 10 万人には達していないが西明石駅には設置の方針だと聞いているので感謝申し上げたい。

また、ハード対策のみならず、ソフト対策も様々な取組みを実施していただいている。

山陽電鉄から何かあるか。

(特別委員)

山陽電鉄の沿線では 10 万人以上の利用者がいる駅はない。またホーム柵設置は多額の費用が必要となるため設置すると明言できないが、研究を重ねている。

山陽電鉄の駅はホーム幅が狭いため、ベンチを横向けにすることはできないが、方策については

研究段階である。

ソフト対策としては身障者の方への声かけや酔客の付き添いを実施している。

酔客を見かけたら、できる範囲で係員が付き添って降車駅まで送っている。

山陽電鉄では国と踏切事故防止キャンペーンを実施しているが、明石市にも協力いただけるとありがたい。

踏切には非常停止ボタンがあるが、普段鉄道に乗らない人へのその周知・広報について明石市に何らかの協力をお願いしたい。

(会長)

明石市には広報紙等があるので方法を検討して周知に協力したい。

他に意見はないか。

(委員)

小・中学校への登校中の事故が頻繁に起こっていると聞いている。

また、狭い道路で飛ばしている車を多く見かける。

通学路についてはもう一度確認して安全を確保してほしい。

(事務局)

明石市では道路管理者や PTA と毎年小学校の通学路点検を実施している。

効果的な対策として、時間規制があり、通学の時間帯だけ通行規制する方法がある。

沿線住民の同意があれば実施可能である。

(委員)

現場の状況を確認する。

(会長)

通学路の危険個所については様々な市民から意見を頂いている。

ある小学校では、安全を確保するため、通学路の経路を変更したところもある。

(委員)

車椅子を利用している娘とヘルパーがたこバスのバス停前で待っていたところ、運転手から「乗れない」と言われて乗せてもらえずにバスが行ってしまった。

該当する停留所を確認したところ、狭くて車椅子が使いづらいと感じた。

なんとかならないのか。

(委員)

現場の状況を確認する。

(委員)

明姫幹線には広い歩道があるが、自転車と歩行者の走行を分ける色分けの表示がわかりにくい。

(委員)

当初からわかりにくいといった声はもらっている。

わかりやすい表示ができないか道路の管理者である兵庫県と確認する。

(委員)

明姫幹線は兵庫県が管理している。

警察庁や国土交通省では歩行者と自転車を分離する方針である。自転車用通行レーンの整備ガイドラインを作成中で、効果が見込める箇所から重点的に整備していく。

路面表示について現状、都道府県毎に表示が異なるため全国的に統一する方針であり、また、表示マークの意味が市民に浸透していないため周知啓発をしていく方向である。

現在、自転車と歩行者の分離については有識者から意見をもらっているところで、実施内容については安全面も考えながら所轄警察署の意見や国の方針も踏まえながら検討しているところである。

なお、明姫幹線について新たにカラー舗装していく予定はないが、修復が必要な箇所は直していく。これから少しずつ変わっていくところである。

(委員)

自転車の安全対策について補足説明をしたいため、資料2の4枚目を確認いただきたい。

現在、国・県・市・警察で検討会を実施しており、自転車利用者にとって利用しやすい環境を整備する計画を作成しているところで、路面表示が可能な場所についても検討していきたい。

(会長)

他に意見はないか。

—意見なし—

(会長)

では、第2次交通安全計画について(案)のとおり計画としてよいか。

—異議なし—

(会長)

異議がなかったため、交通安全計画が決定されたものとする。

これをもって会議を閉会とする。

以上